

健康万歳 ② 飛躍する西年の初夢

今から120年前、明治30年代に某雑誌社が「100年後の100の夢」と題したコラムを発表した。当時は日本の総人口は約4000万人、平均寿命は略40歳だった。

寿命がこれほど低かった理由は頻発するコレラや赤痢、インフルエンザなど急性伝染病の大流行、国民病とまで言われた結核、痘瘡などの慢性伝染病の蔓延、乳幼児死亡率15%という異常な高率などだったが、国民の健康意識は今以上に高かった。

100の夢の中には「人が空を飛ぶ」「月に行ける」など当時突飛な発想もあったが、興味があるのは「結核で死なない」「コレラ・赤痢など伝染病がなくなる」など現実味のある多くの健康問題が目立つことである。当時の100の夢の90%以上は100年を待たずに実現している。

さて今から100年後の夢はと問えば①平成の国民病となった「がん」がワクチン接種で激減する。今は年間死亡者の40%近くを占めているがこれは近き将来には語り草になる。②認知症も1回のワクチン接種で予防できる。③平均寿命は100歳を越すが、頭も体もスッキリ、80歳くらい迄は現役世代で通す。④病院に行けば美人受付嬢(勿論ロボット)から質問用紙に自覚症状を記入して備え付けのポストに差し込むように案内され、数分で次の処置が指示されると20分も待たずに診断名と治療方法が記入された用紙が手許に戻ってくる。⑤腎臓、肝臓疾患などの慢性疾患は今のペースメーカーの様な小型メカを装着しておけば大丈夫。IT技術を駆使したロボットが医療・介護でフル機能するだろうし。凍結精子・卵子で時期や性別産み分けも可能。暗いイメージの病院は今や健康院と看板を変え、熟年(老人)センターが大繁盛するなど、医学の分野は無限に夢が広がる。

地下に張り巡らされた交通網。空飛ぶ自家用小型ヘリ。22世紀は宇宙の時代でもある。宇宙から地球を視るツアーを募集、月に別荘の紹介など、夢は大空を飛翔するがこの初夢の何割かは必ず実現すると確信している。

林 栄一(立花町・医師)



私は旅が大好きです。旅先のホテル等でよく絵手紙の展示を見かけます。一枚の絵ハガキから、ほのぼのとした光景が浮かんで来て、心を癒されます。いつの日か私も描いてみたいと思っています。そんな時、大坪先生の教室を知りました。月一回八女市中央公民館は「つらつ絵手紙教室」が楽しみで、優しくご指導下さる先生、会員の皆さん。居心地の良い教室です。一度覗いてみませんか。ご一緒しましょう。



八女市本村 伊藤 ミヨコ

演習林で体験実習 28.11.24 八女農業高等学校

本校生徒1年生全員が参加して午前中は黒木町中央公民館で福岡森林インストラクターから「食物を生み出す農業、酸素と木材を作る森林・林業」と題して講義を受けました。「花粉症などで嫌われながら、なぜ林業はスギ、ヒノキを植えるのか?」「木材は鉄よりも強い!」など大変興味深い話で、熱心に耳を傾けていました。

午後は、串毛演習林で実習です。森林組合の方々の御指導のもと、同窓会やPTAの方と一緒に、男子はチェーンソーや鋸を使った間伐、女子は長鎌を使った下草刈りを行いました。

生徒の感想の一部を紹介します。「自然の素晴らしさを感じました。空気が澄んでいて良かったです。」「木はいろいろな所で使われていますが、育てるのに何十年もかかって、手入れなども大変なことが分かりました。」「のこぎりで木を切るのはとても大変でしたが、楽しかったです。」「森林組合の方に木の倒し方などを教えていただき、いい経験になりました。」「農業高校でしかできないことを体験できて良かったと思いました。」「森林は洪水を防いだり、空気を良くしたり、水をきれいにしてくれ日本の環境を守る大切な役割をもっていることが分かり、森林を守り続けていきたいと思いました。」「

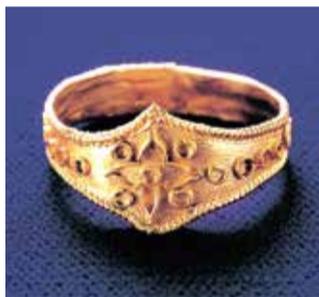


チェーンソーによる間伐作業

生徒たちは講義や実習を通して森林の大切さや林業の一端を学ぶことができました。

1月の校内販売所(みらい館)の開館日

6日(金)、13日(金)、17日(火)、20日(金)、24日(火)、27日(金)、31日(火) 販売時間は、10時30分~12時30分です。多くの皆様のお越しを心からお待ちしています。



国宝 金製指輪 福岡・沖ノ島7号祭祀遺跡 古墳時代・5~6世紀/宗像大社 【展示期間】1月31日(火)~3月5日(日)

特別展「宗像・沖の島と大和朝廷」

会期 平成29年1月1日~3月5日 開館 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分迄)・月曜休館 ※但し1月2日、9日(月)は開館。1月10日(火)は休館。

会場 九州国立博物館 3階特別展示室 海の正倉院とも称される沖ノ島は、『古事記』・『日本書紀』に「沖津宮」と記された由緒ある社であり、8万点にも及ぶ神宝が「国宝」に指定され守られています。本展では、沖ノ島で発掘された出土品と、『古事記』・『日本書紀』に記された神話を交差させながら、大和朝廷を基盤に成立する『神宿の島』宗像・沖ノ島の源に迫ります。

観覧料 一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円

読者プレゼント ペア2組(4名)の方へ。希望の方は住所、氏名、イベント名明記の上(株)東兄弟へハガキで応募下さい。1月10日締め切り、希望者多数の時は抽選によります。チケット発送をもって発表とします。

馬場ゆかり・由美子姉妹 カレンダープレゼント

プロゴルファー馬場選手姉妹のオリジナルカレンダーを10名の方へプレゼントします。

ご希望の方はハガキに住所、氏名を明記の上、東兄弟迄(応募多数の場合は抽選) 応募締め切り

1月10日 (※直接弊社に受け取りに来られる方限定とさせていただきます。当選者にはハガキで通知します)



1月の道の駅たちばな

迎香 年末年始の営業日 12月31日~1月3日 正月休み 1月4日 初売り 青年部もちつき振る舞い 70時~ 甘酒の振る舞い 70時~ 1月9日 ぜんざいの振る舞い 70時~ *振る舞いはなくなり次第終了となります。 道の駅 たちばな 立花町下辺春国道3号線沿 TEL 0943-37-1711

戦後復興とともに庭園が発展し始めた昭和の時代、庭に松などのシンボリックな樹木のある家が増えた。30年ほど前までは庭師や植木職人が活躍し造園業が栄えていた。先代が残した技術を受け継ぎ、続いていけば現在は三代目あたりであろうか。今、職人はほとんど消えつつある。松は苗木から育てるとすれば百年以上の年月を越えて大きな姿となる。現在、20メートルほどの高さの見事な枝ぶりを見せている松は、おそろく江戸時代頃から育っているものだ。そうなるまでには職人による細かな世話と管理が必要。出てきた芽を形よく切ったり針金で枝を下げたり、いかに自然に美しい形を見せるか、職人の腕の見せどころなのだ。そうやって職人が何代にもわたってやると育て上げた松は、現在日本の庭に飾られることは少なく九割が外国(主に中国、韓国)へ輸出されている。日本の家はマンション化し、コンパクとな庭や芝生、バーベキューのできる家族レジャーの庭へと形態が変化している中、受け継がれてきた日本の美は受け入れられず、日本ではない地で絶賛されているのだ。そのブームもいつまで続くかわからない。需要の減少とともに職人の後継者も減少。せっかく培われてきた植木職人の伝統技術が時代に忘れ去られようとしているのだ。 狭い土地にビルやマンションを建てて便利に効率よく発展していく日本の姿の一方で、消えようとする尊いもの。 それを私達は忘れてはならない。 森 志穂

日本の庭が消えていく